

就労支援の効果的な在宅支援プログラム

～長期化する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応～

名古屋市総合リハビリテーションセンター
自立支援部 就労支援課
就労支援課長 稲葉 健太郎

セミナーの趣旨

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は我々の生活を大きく変え、就労支援においても大きな影響を受けています。4月に緊急事態宣言が出て以降、突貫で在宅支援を実施した事業所も多かったのではないのでしょうか。

そこで、全国就労移行支援事業所連絡協議会では、会員の皆さまの様々な取り組みを共有・整理することで、これから到来するであろう第3波・第4波に備えていきたいと考えています。今回は、以前から在宅支援プログラムを実施している事業所からの実践内容を中心に、在宅支援の取り組み・効果的な支援方法・課題を整理できればと思います。単に、報酬のカウントになるという理由ではなく、就労支援の効果的な運用という視点に立ち、議論ができればと考えています。

1) 最初のプレゼンテーション

- ①在宅支援に向けた準備（本人、事業所）は何をしたか
- ②実際行った在宅訓練の内容の紹介

2) 意見交換

- ①アセスメントの視点から効果的な在宅訓練を考える
- ②対面の直接支援ができない環境で効果的なWeb面談方法を考える

本日のスケジュール

17:00~17:10 開会

①ZOOMの利用方法の注意点：事務局

②挨拶

17:10~17:15 趣旨説明：稲葉（名古屋リハ）

17:15~17:25 発表① 高谷さふみさん（あらんじえ）

17:25~17:35 発表② 満留真喜子さん（ラシーネ）

17:35~17:45 発表③ 東 良太郎さん（エンカレッジ心斎橋）

17:45~18:25 ディスカッション

登壇者：高谷さふみさん、満留真喜子さん、東 良太郎さん

進行：名古屋市総合リハビリテーションセンター 就労支援課長 稲葉健太郎

18:25~18:30 閉会 終了

本題に入る前に今回の論点を整理すると…

支援の質

今回は、支援の質、その中でも「就労支援の効果的な在宅支援プログラム」について話をしていきます。

ICT リテラシー

「利用者」「支援者」が情報通信技術（Information Communication Technology）を正しく適切に利用、活用できる力

- 1) 機器類を使いこなせる
- 2) 正しい情報を探し理解できる
- 3) 情報セキュリティ、知識が備わっている

制度

- 1) 「就労移行支援事業、就労継続支援事業（A型、B型）における留意事項について」における『（3）在宅において利用する場合の支援について』
- 2) 新型コロナウイルスへの対応に伴う就労継続支援事業の取り扱い等について（第1～6報）

コスト

利用者・支援機関がどこまでの範囲コスト負担するものなのか

- 1) 通信機器類
- 2) 通信量
- 3) 各種ソフト

本日の議論のポイント → 会社勤務に向けて有効な在宅支援のポイント

- 1) 作業遂行面のアセスメント
- 2) 職場適応面（対人・自己理解）のアセスメント
- 3) 生活面のアセスメント
- 4) 面接・就職活動
- 5) その他

Point

何ができて、何が難しいのか、どんな工夫が考えられるか



セミナー風景

名古屋市総合リハビリテーションセンター
稲葉健太郎氏



エンカレッジ(大阪)
東良太郎氏



あらんじえ(北海道)
高谷さふみ氏



ラシーネ(鹿児島)
満留真喜子氏



協議会事務局
松本真悟

全国就労移行支援事業所連絡協議会